

令和7年度（2025年度） 第7回小原地域会議 会議録

開催日時	令和7年11月4日(火)	開会 午後6時30分	閉会 午後8時30分		
会場	小原支所 第1会議室				
出席者	委員 竹内正美(会長)、白川悠理(副会長)、成瀬友昭、安藤茂則、大林鐘次、岡田口治、板倉正典、増岡正博、加藤元紀、山内明、成瀬啓一、田澤由佳、鈴木孝典、濱辺誠一、無州麻美、伊藤大悟				
欠席者	景山卓己、小出透				
次第	開会 1 協議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・アンケート結果の報告・共有 ・事例紹介 ・意見交換 2 その他(連絡事項・配布物等) <ul style="list-style-type: none"> ・小原四季桜まつり開催について ・市場城跡発掘調査報告 閉会				

■議事要旨

アンケート結果の報告・共有

- ・里の駅構想において活用したい既存施設として、「小原和紙のふるさと」が最も多く挙げられた。
- ・導入したい機能のうち、情報発信機能は必須の機能とする。「里の駅で必要だと思う機能・やりたいと思う機能」、「最初に手を付けられそうな機能」は以下の表の通り。
- ・必要な機能は「子どもの居場所」とする意見が多く、「体験」は比較的取り組みやすい機能であるとする意見が多かった。

	必要な機能 (1人2回まで挙手)	最初に手をつけられそうな機能(1人1回挙手)
◎体験：ワークショップ、制作工房	3人	7人
◎情報発信：観光案内、アクティビティイン	必須の機能	

フォ、SNS 発信		
ドッグラン	—	—
イベントスペース（カラオケ）		
温泉		
◎農地再生：農機具の貸し出し、農業指導、修理販売、農地オーナーなど	5人	1人
◎定住：ゲストハウス（民泊）、コワーキングスペース	3人	0人
◎飲食店：カフェ、居酒屋	5人	0人
◎子どもの居場所（スポーツ施設含む）	11人	5人
◎売店：小原産品、その他食品等	4人	4人
コインランドリー ジム	—	—

◎は意見が多かったもの、◎のついた項目で選出、情報発信機能は必須の項目

アンケートでの意見聴取・事例紹介を踏まえた意見交換

【里の駅の場所】

- ・ 里の駅は、立地や交通動線を考慮すると国道419号沿いが良いという意見だった。
- ・ 小原地区の中心となるので小原和紙のふるさとを拠点とするのが良い。
- ・ 矢作川周辺でキャンプをする人が多いため、その近くに里の駅のような場ができれば良いという意見もある。

【里の駅までの移動手段】

- ・ 高齢者や子どもが利用しやすいよう、移動手段を確保する必要がある。特に過疎地域の山間部で車を運転ができない人のための事例が欲しかった。
- ・ 子どもや高齢者の、自家用車の送迎以外の移動手段があると良い。
- ・ 里の駅に行ってみようという気持ちになるような無料の交通手段があると良い。
- ・ 桜バスをもう少し使いやすくする、ライドシェアとするなど、お金をかけずにできることもある。
- ・ 坂が多い地域のため、貸自転車よりも電動アシスト自転車の方が適している。

【里の駅の目的】

- ・ 里の駅の機能は目的とセットで考えるべきである。目的は定住促進であり、そのために小原のファンを増やし、何度も訪れたくなる機能が必要である。
- ・ 里の駅に求める機能として定住促進（移住促進）ではなく、小原に住む人の暮らしをより良くしたいと意見も多かった。
- ・ 老若男女がふらっと来て、留まれる場所にしたい。
- ・ 無理せず自然に人が集まれる場所とし、交流館の機能を集約したプラスαの要素を持たせると良い。
- ・ 交流館のような静かにしなくてはいけない場所ではなく、中高生が集まる、真面目だけど喋ったりできる碎けた空間が良い。
- ・ 里の駅は、他エリアを繋いでいくことを売りにすべきである。

【里の駅の機能】

- ・ 子どもたちが勉強したり、食があつたりする場が良い。
- ・ 居酒屋など人が気軽に集える場だったら、人が集まるだろう。人が集まれば、みんなで話し合い、ソフトの部分が積み重なり、カスタマイズできる。
- ・ 子育て世代からは、大人も子どもも一緒に気軽に集える飲食・交流の場がほしいという意見が多かった。
- ・ コインランドリー+カフェや図書館（例：可児市の無印良品と図書館がコラボしたカニミライブ、豊橋市のまちなか図書館）のような「ふらっと来て、過ごせる場所」としたい。
- ・ 可児市の無印良品+図書館のように、若い人も高齢者もみんなが自然に集まれる場所したい。
- ・ 子どもが遊べるスケートボードパークのようなスポーツの場もあると良い。
- ・ 子どもたちに手づくり教室をするなど、子どもたちと交流して体験できる場があると良い。
- ・ 子どもの居場所や里山ドッグランは人を引き付ける機能だと思う。
- ・ 物を売ったりするのではなく、体験や情報を発信する場所としたい。
- ・ 一坪店主などの取り組みも面白い。
- ・ 小原には多様な取り組みがあるので、その情報を集約して発信するセンター機能が必要。
- ・ 小原で毎月満月祭をして、その日は火を焚いたりするなど、様々な企画を立て、一度やってみるなど形にしていけば良い。

【実現に向けた進め方】

- ・全ての機能をもたせるのではなく、機能を絞って柱とし、上手くいければ段階的に付け足していくのが良い。
- ・全ての機能が和紙のふるさと内に収まるかは疑問だが、芝生広場や駐車場にコンテナハウスやドームハウスなどを置いて空間を広げることは可能だと思う。
- ・他地域の良い事例を参考に、何か始めてみるのが良い。(2人)
- ・良い事例を参考にして、早く実行へ移すことが大切。形を作れば、その後で組織ができると思う。
- ・中途半端な計画では頓挫する、全てを集中するぐらいの規模にしないと里の駅に来る人がいなくなる。
- ・たくさんの多様性ある小原の魅力を繋いでいくシステムがあれば、人を呼び込む力となる。

【運営組織・主体】

- ・株式会社やNPO法人などの組織形態を早急に決定する必要がある。
- ・NPO法人や株式会社、社会福祉法人など様々な手法がある。
- ・里の駅の運営は自治区が携わることが重要だが、運営上の責任も考えなければならない。
- ・小原和紙のふるさとのある自治区では、地域住民が関わる必要があるのか不安に思っている方もいる。
- ・自治区やコミュニティがどのようにかかわっていくのが良いのか知りたい。
- ・運営組織を作る場合は、小原に住んでやってほしいという条件を付けることが必要。
- ・運営主体を全国から公募する、自治区から地元企業に相談するなど、どのようなルートでやっていくのが良いのか見えてくると良い。
- ・足助大多賀地区の「互いの森 PARK」は、自治区の人が電力会社に相談して、福祉施設の運営主体を紹介してもらい自然を活かしたキャンプやグランピング施設となっている。
- ・しきしまの家の運営組織の立ち上げノウハウが知りたい。
- ・地域会議の委員は年度で変わることもあるため、実行委員会を立ち上げ、実行委員が進める方が良い。
- ・やろうと言った人が組織化した結果が、他地域の事例のような場所になっている。
- ・先頭に立って引っ張ってくれる人がいないと行動ができない。小原では手を挙げる人が少ないのが課題である。
- ・私自身も運営に関わりたい。
- ・形を作つたら、「やりたい」という人が現れることを期待したい。そういう人が引っ張って

くれたら全力で応援したい。

- ・ 地域住民の意識改革は難しいため、まずは形を作り、地域の人を引き込んでいく流れが良い。

次回以降の進め方

- 第7回（今回）：地域住民から収集した意見の報告・共有
- 第8回（12/2）：里の駅整備イメージ（案）の提示 ※書面開催
- 第9回（1/6）：里の駅整備イメージ（案）についての意見交換